

カルメル

霊性センターニュース



2023年1月

393号



2023 年元旦号 【教会からの巻頭のことば】

## 「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12 章 21 節)

『現代世界憲章』 前置き 現代世界における人間の状況

### 希望と不安

こうした使命（人間に提供すべき奉仕）を果たすために教会は、常に時のしるしについて吟味し、福音の光の下にそれを解明する義務を課されている。…

現代世界の主な特徴は次のように描写できる。

今日、人類史の新しい時代が始まっており、深刻で急激な変革が次第に全世界に広まりつつある。人間の知性と想像力によって誘発されるこれらの変化は、人間自身の上に、その個人的・集団的判断と欲求の上に、また、物事と人間に関する考え方と行動のしかたに跳ね返ってくる。こうして、すでに宗教生活にも及んでいる真の社会的・文化的変革について語ることができる。

あらゆる成長の危機に際して生じることであるが、この変革には小さくない困難が伴う。たとえば、人間はその力量を大きく広げるが、しかし必ずしも自分自身に役立つようには、それを制御できない。人間は自分の精神の深層にまでより深く入ろうと奮闘するが、しばしば自分自身についてはますます確信を持たないように見える。また社会生活の法則を徐々に、より明確にしていくが、その社会生活をどう方向づけるべきかについては迷ったままでいる。

…さらに、地上のより完全な秩序作りは熱心に追及されるが、霊的成長はそれに追いつかない。「要するに人類は、静止的世界観から動的・進化的世界観に移行したのである。」

（『現代世界憲章』（1965 年）4 番、参照「前置き：現代世界における人間の状況」4～10 番）





## 目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	25
東京	26
京都	30
諸所の企画案内	33
郵送お申込みのご案内	38
あとがき	39

# 心の泉



宇治カルメル会修道院



## 第三卷

### 第五十二章 自分は、慰めではなく罰に値する者だと思わなければならない

#### 1 子

《主よ、私はあなたの慰めを受け、霊的な訪問を受ける価値のない者です。だから、私を、貧しさや寂しさのうちに残して置かれるのは当然です。私が海ほどの涙を流しても、まだあなたの慰めを受ける資格はありません。ただ、私は鞭打たれ、罰せられる値打ちしかありません。なぜなら、しばしばあなたに背き、多くの罪を犯したからです。》

よく反省すれば、私はどんな慰めも受けるに値しません。しかし、被造物がみじめな滅びに至るのをお望みにならない、情け深いあわれみの神よ、あなたは、あわれみを明らかにし、情け深い富を示そうとして、しもべに何の功德もないことを忘れて、思いがけないほど豊かに恵んでくださいます(ローマ9・23 参照)。実にあなたの慰めは、人間の空しい言葉などおよびもつきません。

#### 2 犯した罪の報い

あなたが天の慰めを私にお与えになるために、私はいったい何をおこなったでしょう？ 私は何一つ、よいことをおこなった覚えがないのです。いつも悪に傾き、自分を改めるのがおろそかだったことを知っています。このことは事実で、否定することはできません。そのようなことはないと言えば、あなたは私を退けられ、誰一人として私を弁護することはできないでしょう。私は犯した罪のために地獄と永遠の罰を受けるほかに何かあるのでしょうか？ 私はただ、侮辱と軽蔑だけを受けてよい人間であり、あなたを愛する人々の群には加われないことを心から告白します。このように告白するのは辛いことですが、真実は真実です。私は自らの罪を明らかにし、あなたのあわれみを受けたいと望んでいます。

#### 3 私は罪人

罪にまみれた恥すべき人間の私が、何を言うべきなのでしょう？ ただ、このように言うほかありません。私は罪を犯しました、主よ、私は罪を犯しました。「私をあわれみ、私をゆるしてください。死の影に満ちた闇の地に行く前に、罪を嘆き悲しんで泣くしばしの時を、与えてください」(ヨブ10・20-22)と。あわれな罪人が痛悔し、罪のためにへりくだることを、あなたは待っていらっしゃるのではありませんか？ 真実な痛悔と卑下<sup>ひげ</sup>とから、ゆるしの希望が生まれ、悩む良心は静かになり、失った恵みが取り戻され、こうして人間は、将来の神の怒りから守られ、痛悔する靈魂は、神と聖なる接吻をかわすために出会うのです。

#### 4 イエスの足もとに

罪の謙遜な痛悔は、おお主よ、あなたに喜ばれるいけにえであり、み前にあって、香よりもかぐわしい匂いを放ちます。その痛悔はまた、あなたの足にそそがれることを望まれた香油です。「あなたは、悔やみ、へりくだる心を退けられることはないのです」(詩編51・19)。それはまた、敵なる悪魔の攻撃に対する避難所であり、靈魂についた汚れが取り去られ、清められるところです。》



## 新しい年への願い



新しい年の扉に天使を見たので

「来年も無事でいられるように、光を与えてください。」と願った。  
すると、天使が私に答えた。

「闇の夜へ出よう・・・。

そして

神のみ手にあなたの手を置きなさい。

それが あなたにとって一番安全で良い方法でしょう。

## 新しい年にあたり主の祝福をお祈り申し上げます

神の母聖マリアの祝日



新しい年が始まります。  
一人ひとりにとって  
今年も「よい年」となりますように。  
何をしようとして、  
どんな状況にいようと、  
どのような場所に置かれようと、  
神との親しさを生きる、  
基本的姿勢を常に保つことが  
できるなら、わたしたちは  
「よい一日、よい年」を  
過ごすことになるでしょう。

神の母の祝日にあたって、

神から溢れ出る慈しみの愛の深さ、広さをあらためて感謝したいと思います。

この慈しみの愛をさらに深く信じ、信頼し、委ねて生きる日々でありますように。

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートル・ダム・ド・ヴィ

## 創造主への賛美（60）

くのり  
九里 彰

「まことの謙遜」は、私たちがちっぽけな自己から解放され、無限の神の愛の世界に入ることを可能にさせてくれる。前回は、このことを、アビラの聖テレジアの言葉を通して紹介した。

聖女は、祈りの生活を通して、「私どもの行なうあらゆる善業は、自分自身という源から出るのではなく」、創造主である神から出るのであり、「自分が何か良いことをするか、あるいは他人がそうしているのを見るかすると、神の御助けなしには人にはまったく何一つすることができない」ということを深く悟ったのである。「それだからこそ、すぐにそれについて神を賛美した」のである。

ここからまず言えることは、「創造主への賛美」は、「まことの謙遜」がない限り、その賛美は、表面的な言葉だけの賛美に終わってしまうということである。それゆえ、心からの賛美とはならず、人の目を気にし、自分を誇ろうとする偽善者的な儀礼的な祈りとなるということである。

しかし、すでに見たように、祈りは心からのものとならなければならない。サマリアの婦人に言われたイエスの言葉が思い起こされる。

婦人よ、…あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。…今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。

（ヨハ 4:21-24）

目に見えない神は、時と場所を越えて、真心から礼拝する者を求めておられるのだが、そこには「惨めさと無にすぎない」という自己認識（真理）から派生する「まことの謙遜」が不可欠となる。それは、自分が現在所有しているあらゆる良いものは、自分が獲得したのではなく、すべて神からいただいたもの、お恵みであるという理解である。これを心底悟るならば、だれも自分を誇ることはまったくできないはずである。

したがって、パウロは、「誇る者は主を誇れ」（1 コリ 1:31; 2 コリ 10:17）、「だれも人間を誇ってはなりません」（1 コリ 3:21）と言うのである。



## 十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (175)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 涙をおさえることができなかった③

聖なる十字架のヨハネ修父は、くだんの詩が歌われるのを聞いた時、思わずほろりとし、苦悩に引き裂かれました。というのも、神について多くの良いことを知るには、それほどには多くの苦しみを知らなかったからです。とはいえ彼に与えた苦悩はあまりにも大きかったので、目には涙がいっぱいとなり、一筋また一筋と頬をつたい始めました。彼は一方の手で格子をつかみ、他方の手で本証人や他の修道女たちに、沈黙し、歌うのをやめるよう合図しました。その後、彼は両手で格子をしっかりとつかみ、一時間ほど高揚した状態で握りしめたままでした。この後、我にもどり、こう言いました。我らの主は、神のために苦しみを受けることがどれほど大きな恵みであるかを分からせるためにたくさんのお恵みを私にお与えくださったと。また良いことを知るために神は彼にわずかな苦しみしか与えなかったかを見て、嘆きました。このことは、本証人やこの修道院の他の修道女たちに、苦しむことに対してとても大きな愛と喜びを引き起こしました。そして皆、ひどい苦しみを耐え抜いてきたばかりのこの人を見て、感嘆しました。また私たちのためにひどい苦しみを耐えた彼のために、私たちはそれ以上の苦しみ耐え忍んでこなかったことに気づきました。

それから、大分時が経ってから、彼はこの修道院に来て、我らの主について講話をしました。別のテーマではなく、良いことについて知りたいならば、神に苦しみを願うように、そしてそれを貴重な宝石ように受け取らねばならないと。その苦しみが大きければ大きいほど、それはより大きな宝石となり、それを大きな愛をもって受け入れ、神のために耐え忍ぶならば、より価値の高いものとなるであろうと。ある人に多くの貴重で高価な真珠や宝石を贈るならば、その人の内に大きな愛を引き起こすように、我らの主に大きな愛を引き起こすであろうと」。

(P. 九里訳)

## 神の母聖マリア (A)

(ルカ 2 : 16 - 21)

「マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた」

神の母聖マリアの祭日をもって新年を迎えます。降誕節の最初の8日間、ご降誕に重大な役割を果たした聖なる女性に目を注ぎます。このお祝いは、神の母おとめマリアが、人であり神であるお方の母だけでなく、天上の母と教会の母でもあることを想起します。全人類の中で最も愛情深い母なのです。

「マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた」という記述は福音書に何度か登場します。マリアは、理解できないことを体験した時に「思い巡らす」という方法を取っていたようです。まだ自分も子どもと言えるほど若く、男の人を知らないのにどうして胎内に子を宿すことができるのでしょうか？御父の家でそのご計画を果たす御子の神秘をどうやって理解できるのでしょうか？我が子が犯罪人として死ぬのをどうやって受け入れられるのでしょうか？そして「いつの世の人もわたしを幸いな者と言う」という自分を待ち受ける運命をどうやってのみ込むことができるのでしょうか？

マリアは、一人で沈黙のうちにこれらをすべて思い巡らしました。もしかすると完全に理解できなかったかもしれません。しかし全部理解できなくても心の底で受け入れることを学びました。生ける神の腕の中に自分をゆだねる意味を学んだのです。

私たちも「自分の心で一体何を思い巡らしているだろうか？」と自分に問いかけてみましょう。自分たちに起こる出来事について理解できないことは多々あります。人生の中で神の神秘的な働きかけに遭遇する時、マリアのように心の奥底で思い巡らすことができるよう神に願いましょう。神の聖なるみ旨に自分自身をきっぱりゆだねることを神の母から学ぶことができますように。

キリストにおける友である皆様！2023年が喜びと平和に満ちた年でありますように。皆様の人生があふれんばかりの神の祝福で満たされますように。

*(Sr. Paulina)*

## 主の公現

(マタイ 2 : 1-12)

星に導かれてベツレヘムまでやって来た占星術の学者たちは、喜びにあふれて幼子イエスを拝み、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げました。彼らは異邦人でしたが、イエスこそがユダヤ人の王であり、自分たちの救い主でもあるということ占星術の探求をとおして見出したのです。

いろいろな国のいろいろな文化の中に福音の種が蒔かれていると第二バチカン公会議の公文書に書いてあります。占星術の学者たちは、ユダヤ人以外で初めてイエスを礼拝した人たちでした。やがて、世界中のさまざまな国や民族の人々がイエスを救い主として認め、同じ唯一の神を礼拝し、一つに結ばれるようになっていくことの最初のしるしがこの占星術の学者たちの出来事なのです。

彼らはユダヤ人たちのように聖書を持っていませんでしたが、イエスを礼拝することをとおして、真の喜びを見だし、正しい救いの道を歩む方法を見つけました。彼らは最初、その残虐性に気付かずにヘロデ王に近づきました。しかし、イエスを礼拝した彼らはもうヘロデのもとには戻らず、別の道を通して自分たちの国に帰って行きました。ヘロデから「その子を見つけたら教えてくれ」と言われていたにもかかわらず。

これは、イエスを礼拝することで心が照らされ、悪を退け、正しい救いの道を歩むようになれるというしるしだと思います。異邦人はイエスとの出会いを通して神様を知り、その霊に照らされて、救いの道に導かれるのです。そしてユダヤ人に与えられていた聖書をもイエスに教えられて自らのものとしていけるのです。

お生まれになったイエスは「啓示の頂点」とも第二バチカン公会議文書は述べています。ユダヤ人にだけ示されていた聖書の啓示は、イエスの誕生によって頂点に達し、世界中から異邦人がやってきて、聖書の民となっていくます。そして、それぞれの民族や文化の中に蒔かれていた福音の種が成長して実を結び、世界中が神の国に向けて一つになって行く。それが神様の壮大なご計画なのだと思います。

日本人である私たちもイエス様のおかげで救いの道に入れられたことに感謝しながら、さらに多くの人々がイエス様を知り、礼拝し、救いに導かれ、今のこの悩み多き世界が少しでも神の国に向かって成長していきますよう、福音宣教に励んでいきましょう。

(今泉健 神父)

## 年間 第2主日 (A)

(ヨハネ 1 : 29 - 34)

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ」

色鮮やかなイルミネーションがキラキラ輝く降誕節も終わりを迎えました。主の洗礼のお祝いを経て、これから教会は「年間」の典礼暦となります。4番目のヨハネによる福音書では、引きつける力を持つ、新しい使命を受けたイエスの姿が描かれています。イエスの公生活・宣教の幕開けです。

イエスの先駆者である洗礼者ヨハネは、ナザレのイエスという若い男性が神から選ばれし「神の子羊」だと認めます。「神の子羊」とは、神を暗示する表現です。自分のひとり子を子羊としてつかわした神の無条件で無限の愛を表しています。この謙遜な子羊は、私たちが贖うために苦しみを受けてほふられる過ぎ越しの子羊です。洗礼者ヨハネは、神の子羊が聖霊によって洗礼を授けるとも告げました。つまり、神が私たちが愛したように他者を愛し、献身的かつ忠実な新しい生き方をするための霊的な力を私たちに与えてくれるのです。

洗礼者ヨハネの偉大な使命は感嘆すべきものです。ヨハネは、イエスが神の子羊だと私たちに指し示してくれました。私たち一人ひとりもイエスに従う者として、特に救い主イエスをまだ知らない人々に対し、イエスを世界に告げ知らせる使命を持っています。私たちの家庭で、近隣で、そして全世界に向けて、イエスの姿を現して分かち合いはじめましょう。

最後に福音書で、ヨハネはイエスを神に選ばれた神の子と呼びましたが、これは、イエスが神の聖なるみ旨を最後まで完全に果たされることを意味します。私たちも洗礼を通して神から選ばれた者となりました。「私の人生の歩みの中で神のみ旨を果たしているだろうか？」と自分の心の糾明をしていきましょう。

*(Sr. Paulina)*



## 年間 第3主日

(マタイ4：12-23)

年間第3主日は「神のことばの主日」。新たに始まったこの年、神のみことばを大切にご一緒に歩んで参りましょう。今日の福音ですが、イエスが荒野において悪魔から、誘惑を受けられた後、宣教を開始された時の場面が語られています。公生活に入られたイエスは、洗礼者ヨハネがヘロデ王によって捕えられたと聞き、ガリラヤに退かれます。そしてこのことによって、預言者イザヤを通して言われていたことが実現しました。

イエスの宣教活動の初めが、イスラエルの政治的・宗教的中心、エルサレムではなく、異邦の色彩の強いガリラヤから始められたのは、神の救いがエルサレムから遠く離れた、忘れ去られた様な人々にもたらされ、暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に住む者に光が射し込んだと語られる様に、救いもたらされ、神の救いが異邦へと広がり、全世界へ広がっていくことを暗示しているのでしょうか。

イエスはこのガリラヤで弟子たちをお呼びになります。イエスが人々をご覧になられ、これはと思う兄弟に「わたしについて来なさい」と呼びかけ、呼掛けられた兄弟たちはイエスに従ってゆきます。最初の兄弟は、漁師のシモン（ペトロ）とアンデレでした。そして次の兄弟はと言うと、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヤコブでした。

何れの兄弟も、イエスがガリラヤ湖のほとりを歩かれ、進まれ、ご兄弟たちの様子をご覧になられて、彼らに声をかけると、網を捨て、舟と父親を残して、従ってゆきます。イエスをご覧になって、そして直接に呼ばれることによって、生き方が変えられてゆき、そして呼び掛けに応えることによって、イエスの弟子となって歩んで行ったわけです。

私たちは一人一人、別々に父なる神から呼ばれて、イエスから呼ばれて、それぞれの道を歩んでいます。家庭を捨て、独身を捨てて、今日の福音に出て来る様な弟子の様に呼ばれる方々もあるでしょうし、また結婚して子どもをもうけて、次の世代へと生命をつないでゆくことに呼ばれた方々もおられることと思います。

イエスが私たちのことをご覧になられ、私たちがイエスの言葉に耳を傾け、私たちの生き方が変えられて、イエスに従ってゆくことができます様に。互いに祈りあいながら、ともに願いながら、ご一緒に歩んでゆきましょう。

(Fr. 古川利雅)

## 年間 第4主日

(マタイ5：1-12)

本日の福音でイエスは、「山上の説教」と言われている力強い説教をされました。この説教を通して、イエスは弟子たちに正しい生活をする道を教えました。イエスは、Beatitudes(真福八端)と呼ばれている八つの重要な教えを与えました。Beatitudes という語は、「最上の祝福」、あるいは「最上の幸福」を意味します。真福八端の中に八つの条件に付随する八つの祝福を見出します。このように真福八端は、ある正しい特徴により受けると約束されている祝福を強調しています。

真福八端の中で、主イエスがついてくるように呼びかけた12人の弟子たちに話しているということを私たちは知っています。これらの真福八端は、神の御目の中で人を祝されたものにします。イエスは真福八端において、ある特質を示す人々に特別な祝福による特質をもたらします。この特質は本質的に霊的なものです。この中心は、外面的な行いというよりは内面的な特性です。イエスは真の幸福は内面的なものであり、霊的なものであると教えています。神の祝福は、私たちの内部の性質や心に基づくものであって、外部の状況や環境に基づくものではありません。実際には、主の教えの背景にファリサイ派の人たちの外面的な律法尊重主義がありました。主はこれに反して、真福八端の教えこそが真の宗教であり、信仰であり、これは心の中にあるということを示しました。これは人が作った宗教ではなく、神へ向かう私たちの関係性であり、心から人に向かう関係性であります。

イエスは、イエスに従う人々への祝福、神の慈しみの祝福、神のみに憩い神のみを信頼する人たちに、全き平和とシャロームを言明しています。私たちは、現在この場でこれらの祝福のいくつかを経験していますが、イエスがまた来られるときの完全な完成を待ち望んでいます。カトリック教会のカテキズムは、真福八端の重要性を「キリストの教えの心」と要約しています。キリスト教徒として、私たちは真福八端の生活を生きるように呼ばれているのです。

(Sr. Paulina)

## 糸巻き棒からペンへ(82)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

むしろ私がお話ししようと考えているのは、建物の土台についてです。その上に、祈りという建物が築かれねばならないからです。それは、相互の愛と、すべての被造物からの離脱と、謙遜（これは最後に申しましたが、主要なもの）です。これらが欠けるならば、建物全体が崩れることでしょう。それゆえ、私たちの祈りが本物となるためには、祈りにはこれらの偉大な諸徳の実践が伴わなければなりません。

愛に関しては、隣人のためにより多くのことをなした人々は、常に神を熱心に愛する人々であり、その他のことはすべてよく言われるようにほんの一瞬しか存在しないわらの煙のようなものであることをあなたがたはもうご存知です。愛そのものである神と一つになるには、神の子が私たちに教えられたように、愛のうちに歩まなければならないことは明らかです。愛は愛を生み出すのですから、重要なことは、主の愛が私たちに先立ち、私たちに常に同伴しているということに気づくことです。私たちのために御自分の命を与えるほどに私たちに愛し、その模範にならうよう私たちに求めていることに注意を向けるならば、私たちは、兄弟たちを愛することを学ぶことでしょう。

必要とされている離脱に関しては、神にたどり着くために、どのように私たちは神ではないすべてのものから自由にならなければならないのかということは、明らかであるように思われます。なぜならば、愛情や出来事が私たちの考えや私たちの力を占有しているならば、どうして私たちはすべてを越えて主を愛していると言うことができるのでしょうか。

同様に謙遜も必要であると、申しました。それは、真理の内を歩むことに他なりません。それは、自分を知ることであり、霊魂は空っぽではなく、神ご自身が私たちの中に住んでおられることを知ることであり、私たちは神と一致するように呼ばれており、自分の力だけではできないにせよ、私たちの内に神が働かれるよう準備することはできるということを知ることです。

(P.九里訳)

# いのちの言葉 1月

善を行い、正義を追い求めなさい。

(イザヤ 1・17 参照)

今月のみ言葉は、預言者イザヤの第一章から取られています。このみ言葉は、1月18日から25日の間、北半球で祝われる「キリスト教一致祈禱週間」のために選ばれました。今回、米国ミネソタ州<sup>1</sup>のキリスト者の方々が準備してくださいましたが、正義というたいへん差し迫ったテーマが取りあげられています。事実、平和と一致の文化を思うように証することができない社会にあって不平等や暴力、偏見が一層拡散しています。とはいえ、預言者イザヤが生きていた時代も、今とそう変わりませんでした。戦争や反乱、富の追求、権力争い、偶像崇拜、貧しい人々を虐げ排斥するなど、こうした世相にあってイスラエルの民は歩むべき道を見失っていました。イザヤは、非常に厳しい言葉でそのような民を回心の道へと引き戻そうとし、神がアブラハムと結ばれた契約に立ち帰るための道を民にはっきりと指し示しました。

## 善を行い、正義を追い求めなさい

ところで「善を行うのを学ぶ」とはどういう意味でしょう。学ぶためには、私たちの心が外に開かれていること又、なすべき努力も要ります。毎日、理解すべきこと、向上すべきことはいつもあります。そして何か間違っただとしても、私たちは、いつでも、もう一度やり直すことができます。では「正義を求める」とはどういうことでしょうか？ 正義は、様々なことを行う上で私たちが望むべきもの、そして、目指すべき「宝」といえます。また正義は善を行う助けとなり、神のみ旨が何であるかをより一層私たちに分からせてくれるものです。なぜなら神のみ旨こそが、私たちの善だからです。

イザヤは、具体的な例を挙げています。神が最もいつくしまれるのは、無力で抑圧された人々、身寄りのない子供、そして、やもめである、と。彼らは最も無防備な存在なので、神は、ご自分の民に対して、このような自分の権利を主張できない人々に手を差し伸べるよう求められる。そして、宗教的な儀式や捧げもの、また祈りであっても、善い行いと正義の実践が伴わないのであれば、神は、それらを決して喜ばれることはない、と。

## 善を行い、正義を追い求めなさい

今月のみ言葉は、他の人々、特に困っている人を具体的に助けるよう促し、私たちの回心の歩みに求められるのは、苦しんでいる人に対して、心、思い、そして腕を大きく広げることだと教えています。

「正義を望み、正義を探し求めることは、人の良心に刻み込まれています。



神ご自身が人の心にそれを植え付けられたからです。歴史の中で多くの進歩や発展があったにせよ、神のご計画の完全な実現には何とほど遠いことでしょう！ 今日もお、戦争やテロ、民族紛争が絶えまなく続いています。これらはすべて、社会経済の不均衡、不正、憎悪の表れと言えるでしょう。

…あるいは、愛や相手に対する敬意・心遣いがなくても正しい関係を築けるかもしれませんが。しかし、このような関係はいずれ形式的で事務的なものとなり、相手にとって何が本当に必要であるかを分かるまでには至らないでしょう。愛がなければ、真の正義は決してあり得ず、裕福な人と貧しい人との富の分かち合いも生まれてはこないでしょうし、一人ひとりの尊さを真に理解し彼らが置かれている状況を察することもできないでしょう。」<sup>2</sup>

### 善を行い、正義を追い求めなさい

一致した世界のために生きるとは、人類の傷を何らかのかたちで自身の背に負い、人類家族を築くために自分にできる小さな行いをすることにあるのかもしれませんが。

ある日のこと、アルゼンチン出身の J.さんは、以前自分が教鞭をとっていたある研究所の所長だった人と道でばったり会いました。この上司は、J.さんをささいな口実で解雇した人で、J.さんに気付くと道をそれようとしていましたが、J.さんは彼に追いつきました。近況を尋ねると、彼は今別の町に住んでいて求職中だが、仕事が見つからず苦しい時期にあるとのことでした。J.さんは彼を助けることを申し出、翌日、知人たちに職探しのニュースをながすと、すぐ返事がありました。J.さんから新しい仕事の知らせを受けて、彼は一瞬自分の耳を疑いました！ 自分が解雇した人なのに、ここまで親身になって自分を心にかけて助けてくれたことに深く感謝し、感動していました。

そしてちょうどそのころ、J.さんにも「100倍の報い」がありました。大学に入学して以来ずっとこれまで自分が望んでいた2つの仕事がJ.さんに提供されたからです。具体的でタイムリーな神さまの愛の計らいにJ.さんはとても驚き、感動せずにはられませんでした。<sup>3</sup>

### 善を行い、正義を追い求めなさい

パトリスia・マッゾラ と  
いのちの言葉編集チーム

\*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1 2020年のジョージ・フロイドさんの死（白人警官に殺された黒人男性）をきっかけにミネソタ州は人種差別撤廃の発信地となった。

2 キアラ・ルービック、2006年11月の「いのちの言葉」より抜粋

3 チッタ・ノーバ誌 2022年1月/2月号「今日の福音」からの体験

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: [tokyofocfem@gmail.com](mailto:tokyofocfem@gmail.com) ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2022年11月24日

## 教皇庁立 テレジア国際神学院 2022年—2023年学年度 発足式



2022年10月14日金曜日にテレシヤヌム、教皇庁立国際神学大学テレジア霊性神学院は新学年度の発足式を祝いました。その祝別ミサがバチカンのキリスト教一致推進省長官の S. エムザ カート コッホ枢機卿によって捧げられました。この最初のミサ後、学術行事が行われ、前半では教皇庁立大学の主宰者クリストフ ベッチャート神父,OCD が2021年—2022年度の状況説明を行いました。後半はエムザ カート コッホ枢機卿によるプレゼンテーション、題して“神学の魂としての祈り。神学的黙想と霊的実習の関係について” がなされました。

この発足式は テレシヤヌムの修道院での軽食会で終わりました。大学の新学年度ウェブサイトは次の通りです。 <https://www.teresianum.net> 何週間

か前に、大学のウェブサイトは ” 機関リポジトリ ” (注1) で豊かな内容になりました。その目的は、一つのオンラインスペースで、大学の系統的な作品管理とそのメンバーを保存することです。この機関リポジトリは、公式ウェブサイト: <https://repository.teresianum.net> でアクセスが可能であり、新しい内容が継続して掲載されます。このように大学教授たちの系統的開示著作物管理により、そのプラットフォームはわたしたちの主な雑誌、特にテレシヤヌムの雑誌や刊行物 “*Fiamma Viva*” (注2) をオンラインで全部利用を可能にします。機関リポジトリで他に重要なのは、大学で取り上げられた博士論文で見られるものがあることです。

#### 注釈

注1: 機関リポジトリ、institutional repositoryとは、研究機関などがその知的生産物を電子的形態で集積し保存・公開するために設置する電子アーカイブシステム。

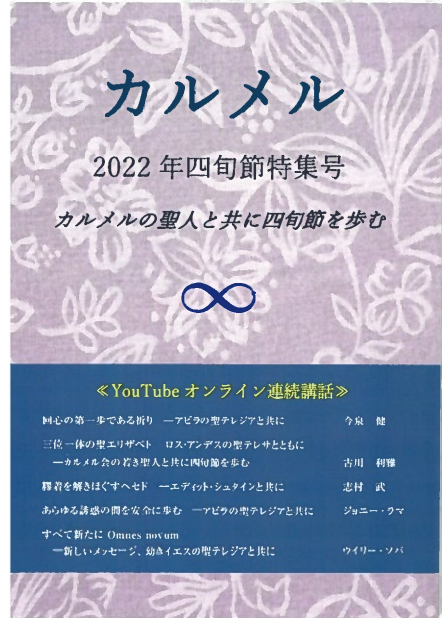
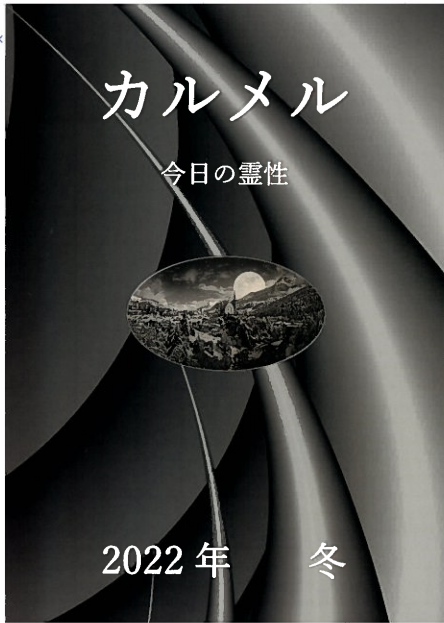
注2: *Fiamma Viva*、雑誌の名前で直訳意味は命の炎。

(訳・注: 小宮山延子)





# カルメル誌 新刊案内



## 2022年 冬号 No.387

### 道の靈性(続)第四回

旅の挫折を越えて

田畑邦治

### 日々の出来事の中で 神の靈は導く(4)

—テレーズ生誕(1873~1897)—五〇周年を迎えて

伊従信子

### 諸聖人の祭日—聖徒の交わりを信じる

ポーリン・フェルナンデス

### キリストの説かれた 幸いなる道(8)

九里 彰

### 霊的研究会講義録(18)—聖書・祈り・愛について

奥村一郎

## 2022年 特集号

### カルメルの聖人と共に四旬節を歩む

#### 回心の第一歩である祈り

—アビラの聖テレジアとともに

今泉 健

#### 三位一体の聖エリザベト

ロス・アンデスの聖テレサとともに

—カルメル会の若き聖人と共に四旬節を歩む

古川利雅

#### 膠着をときほぐすへせド

—エディット・シュタインと共に

志村 武

#### あらゆる誘惑の間を安全に歩む

—アビラの聖テレジアと共に

ジョニー・ラマ

#### すべて新たに Omnes novum

—新しいメッセージ、幼きイエスの聖テレジアと共に

ウイリー・ソバ

**ご案内** 1冊 580円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com



# 新刊紹介

## 聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chrysostomus  
小野崎良子 編

## ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた  
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師  
(カルメル会)  
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

教友社定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

### 小野崎 良子(おのぎき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

### ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

## 書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



## 『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話  
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットやAIが発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

### フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933年スペイン、バレンシア生まれ。1950年跣足カルメル修道会入会。

1957年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018年10月27日マドリードにて帰天。享年85歳

### 九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990年カルメル会入会。1997年司祭叙階。1999~2002年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

# 愛と英知の道

— すべての人のための霊性神学 —

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳  
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

## 第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 智恵(1)
- 第2章 智恵(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

## 第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
- 第10章 英知と(空)

## 第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を習得し、神学博士。東洋の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





# 書籍案内

## 生きる意味

### ●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

#### ————— 目次 —————

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ





**第2版  
好評発売中!**

福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて  
十字架の聖ヨハネの  
**ひかりの道をゆく**

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ  
を生き、体験し、確認した教えなのです。  
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの  
教えは現代の人々にも十分適応されます。  
また、神の命を伝え、実践的手段を示して  
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の  
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる  
**いのりの道**

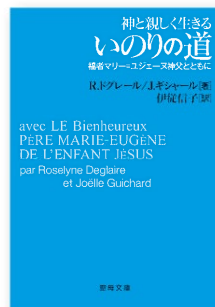
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

**R. ドグレール / J. ギシャル 著**

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



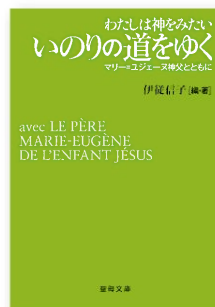
わたしは神をみたい  
**いのりの道をゆく**

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

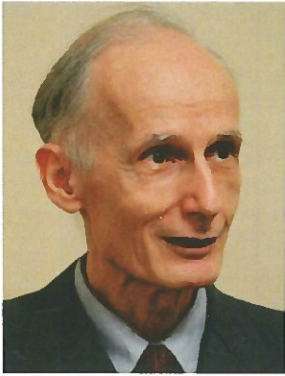
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

**聖母の騎士社** ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1  
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



# クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	<b>I 超越体験 一宗教論</b> 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	<b>II 真理と神秘 一聖書の黙想</b> 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	<b>III 信仰と幸い 一キリスト教の本質</b> 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	<b>IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論</b> 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	<b>V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践</b> 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

## ●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

## カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



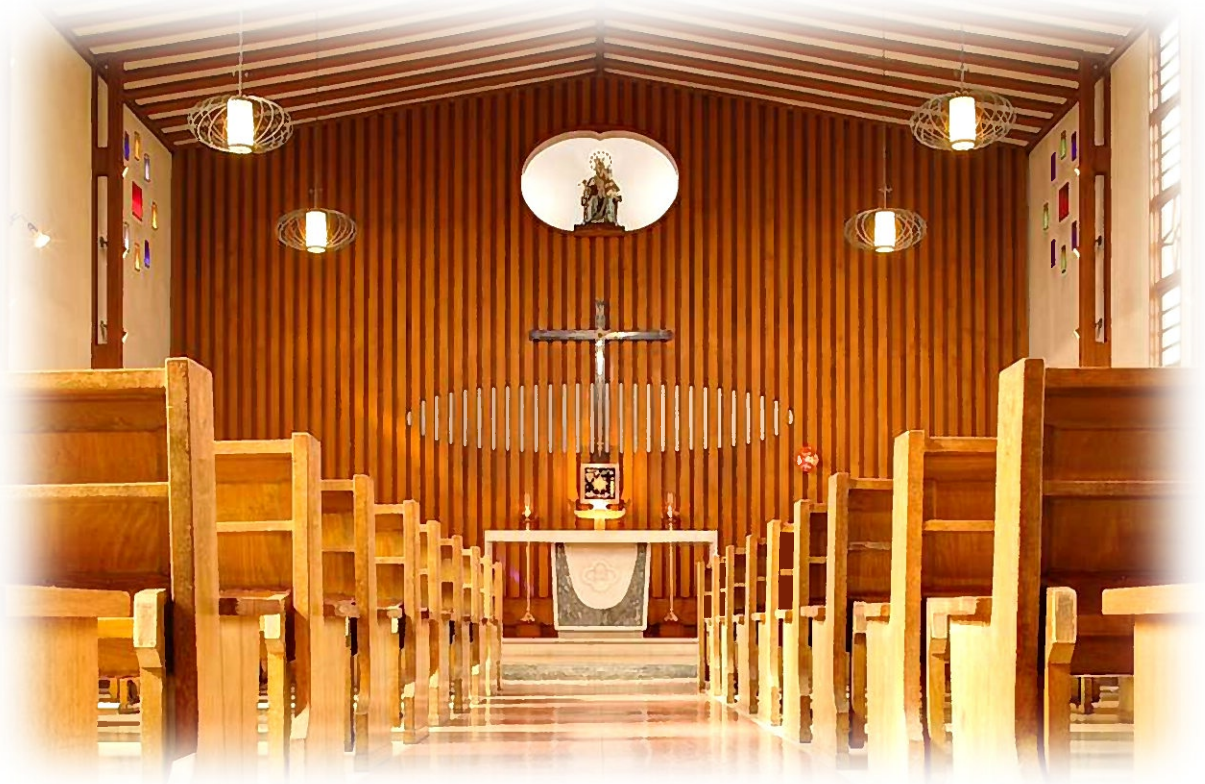
## 東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 \*\*上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) \*\*

(～2023年3月)

- ・祭日のミサに参加するために  
チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
- ・聖書深読黙想会(土曜日17時～日曜日16時) 大瀬高司 神父  
2023年  
2月25日～26日
- ・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日10時～16時・昼食付) カルメル会士  
2023年  
1月25日 2月15日 3月15日
- ・キリスト教霊性入門(木曜日10時～16時 昼食付) 志村武 神父  
2023年  
1月12日 2月2日 3月2日
- ・一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時) カルメル会士  
2023年  
1月14日～15日  
3月18日～19日
- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日17時～最終日朝食) カルメル会士  
12月27日(火)～2023年 1月 5日(木)
- ・カルメル会召命黙想会(男子)40歳まで (初日16時～最終日16時)  
カルメル会士  
2023年  
2月 4日(土)～ 5日(日)





- \* 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- \* こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- \* 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>

# 一日黙想会

テーマ：『カルメル会聖人に学ぶ黙想会』

\* 毎月第三水曜日（8月はお休み）

\* 10時～16時 3,500円（昼食付）

<2022年度開催予定日（2022年4月～2023年3月）>

2022年 4月20日 — 5月18日 — 6月15日 — 7月20日  
9月21日 — 10月26日 — 11月16日 — 12月21日  
( \* 第4週 )

以上終了

2023年 1月25日 2月15日 3月15日

コロナの状況により中止となることもございます。  
当面は少人数(定員10名)での開催とさせていただきます。

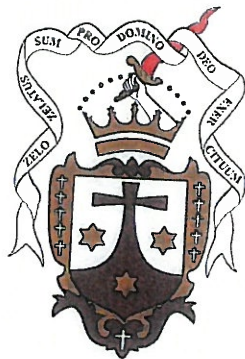
\* 当修道院司祭が交代で指導いたします

今泉 健 神父  
ジョニー 神父  
志村 武 神父

お問合せ・お申込み: 〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

Tel: 03-5706-7355 Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp



## ★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の霊性を生きることとおして教会に生涯を奉げる道があります。聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証していく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思えます。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2022年 ~~4月2日（土）～3日（日）~~ 16時～翌日16時

~~7月9日（日）～10（日）~~ //

~~10月29日（土）～30日（日）~~ //

2023年 2月 4日（土）～5日（日） //

会費：¥5,000（3食付き）

\*お問合せ お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL.03-5706-7355 FAX.03-3704-1789

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp





## 宇治カルメル会 黙想会案内 (~2023年3月)

**【一般のための黙想】** 中川博道神父  
1泊2日 (土曜 午後5時~日曜午後4時)  
5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始

2023年  
1/14~15 2/18~19

**【聖書深読】** (午前10時~午後4時) 中川博道神父

2023年  
1/21 2/11

**【祈りの学校】** (木曜 午前10時~午後4時) 松田浩一神父

2023年  
1/12 2/2 3/2

**【奉獻生活者の黙想】** (午後5時~午前9時) 一般可

2022年12/27(火)~2023年1/5(木) 中川博道神父

2023年  
**追加** 3/6(月)~3/14(火) 中川博道神父

**【祭日のミサに参加するために】**

**\*<クリスマス>**

12/24~25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30  
(講話なし 食事つき)



－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)  
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191  
E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)  
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

# 新企画！

松田浩一神父（カルメル会）による黙想会

## 「祈りの学校」

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



すべて木曜日 10:00～16:00

5/19 — 6/2 — 7/7 — 9/1 — 10/13 — 11/3 — 12/8 終了

2023年 1/12 2/2 3/2

持参するもの・・・筆記用具・ロザリオ

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax 0774-66-1191（聖テレジア修道院（黙想）専用）

E-mail : [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)



# 諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター  
ノートルダム・ド・ヴィ  
サダナ瞑想  
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。

## 真命山 2023年 — 祈りの集いのご案内

### テーマ 聖性への招き

召し出してくださった聖なる方に倣って、あなたがた自身も  
生活のすべての面で聖なるものとなりなさい（1ペトロ1，15）

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

予約は前日の16:00まで

- 1月12日 励まし、寄り添ってくださる諸聖人（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 2月 9日 福者高山右近と日本の殉教者（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 3月 9日 十字架の聖パウロ（ソットコルノラ・フランコ神父）
- 4月13日 マグダラの聖マリア（Sr. マリア・デ・ジョルジ）
- 5月11日 聖シャルル・ド・フーコー（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 6月 8日 三位一体の聖エリザベト（ソットコルノラ・フランコ神父）
- 7月10日 聖マクシミリアノ・マリア・コルベ（園田善昭神父）
- 8月 休み
- 9月14日 コルカタの聖テレサ（Sr. マリア・デ・ジョルジ）
- 10月12日 幼きイエスの聖テレーズ（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 11月 9日 聖ガイド・マリア・コンフォルティ（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 12月14日 聖フランシスコ・ザビエル（コデノッティ・クラウディオ神父）



・個人またはグループでの黙想会  
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186



# 講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、  
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を  
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を  
当会のHPに掲載いたしますので、  
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

\*\*\*\*\*

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail [notredamedevie.japan@gmail.co](mailto:notredamedevie.japan@gmail.co)

# サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
フォローアップ 新 I	1/22(日) 9:30-17:00	サダナ チーム	援助修道会 リヒト宣教室(市ヶ谷) ※ミサは無し。イスでの 黙想です。	来間(くるま) 裕美子※ sadhana12378@ yahoo.co.jp
名古屋 サダナ II  ※前半・後半合 わせて参加でき る方のみ申し込 み可能	【前半】 2/4/(土)9:30- 5(日)18:00  【後半】 2/11(土)9:30- 12(日)18:00	Fr植栗	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
サダナ II	2/22(水)17:30- 26(日)16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野 毛修道院・黙想の家 (世田谷区上野毛)	来間(くるま) 裕美子※
フォローアップ 新 I	3/5(日) 9:30-16:00	サダナ チーム	援助修道会 リヒト宣教室(市ヶ谷) ※ミサは無し。イスでの 黙想です。	来間(くるま) 裕美子※
札幌サダナ I	3/18(土)9:30- 19(日)18:00	Fr植栗	札幌カトリックセンタ ー(札幌市中央区)	本間 攝子 080-3260-1864 不在時は、山崎 有紀 090-4720-2157
札幌サダナ II	3/20(月)9:30- 21(火祝日)	Fr植栗	同上	同上
サダナ I	3/30(木)17:30- 4/2(日)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道 会・町田黙想の家 (町田市本町田)	来間(くるま) 裕美子※

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナ I を終えていること。

●入門Cへの参加…入門Aまたは入門Bを終えていること。



## 念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14：00～16：00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

### 中止のお知らせ

#### 2023年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は、コロナウィルス感染のため、開催を中止しております。秋口からの再開を予定しておりましたが、いまだ感染の終息が見えない状況の中、今しばらく中止させていただきます。

再開する場合は、この紙面上にて再度お知らせいたします。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

# 『靈性センターニュース』

## \* 郵送お申込みのご案内 \*

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。  
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、  
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座  
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184  
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、  
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。  
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。  
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。  
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」  
Tel:0774-32-7456  
Fax:0774-32-7457  
[reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

## インターネットから読める様になりました

『靈性センターニュース』バックナンバーを  
宇治カルメル会のホームページに掲載してます。

PC版のみ PDF形式

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」をクリック

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています



あけまして、おめでとうございます。読者の皆さんの新しい年の上に主の豊かな祝福と平和をお祈りいたします。

新しい年を迎えて、先日ある雑誌社から原稿依頼を受けたテーマ、「今、キリスト教に求められているもの」が自分の中でクローズアップしてきます。

その中で先ず思い浮かぶのは、既成のキリスト教の概念から「出て行くこと」の必要です。昨年中、教皇フランシスコの次のおことばが響き続けていました。

「ある聖人（ロメロ枢機卿）が言っています。『キリスト教は、信じるべき真理、守るべき法規、禁止事項の一そろいではありません。そうなったら不快です。キリスト教とは、わたしのことをあれほどまでに愛してくださり、わたしに愛を求めておられる、あのかたのことです。キリスト教とはキリストのことなのです。』」（フランシスコ教皇『キリストは生きている』156）

そして、不毛な悲観主義への警戒です。

「たびたびわたしたちの耳に届いて不愉快に思うことがあります。それは信仰の熱意を燃やしつつも公平な判断と賢明な思慮を欠いた人々の声です。この人々は、人類社会の現状を見ては破壊と災難しか見ることができず、過ぎ去った世紀と比べて現代はただただ悪いほうに向かってしまったと繰り返し言い続けます。……あたかも世の終りが近づいたかのように、つねに災いしか予告しない不運の預言者にわたしは絶対に賛成できません。人類の歴史と社会秩序が新しい時代に突入しようとしているときにも、むしろはかりしれない神の摂理を認めるべきでしょう。摂理は、時代の流れの中で、たびたび人の期待をも超えてその働きを成就し、人間の悲運をも教会の発展へと知恵深く向けてきました。」（フランシスコ教皇『福音の喜び』84）

さらに、時のしるしとしての「霊性」の原点に立ち返ることです。

「多方面で世俗化が進んでいるにもかかわらず、世の中に霊性の要求が普及していることは、今日みられる『時のしるし』です。このしるしは、世界の大部分において、祈りの新たな必要として表面化してきたのではないのでしょうか。……ここで、輝かしい多くの証しの中でも、十字架の聖ヨハネの教えや、アピラの聖テレジアの教えをどうして忘れることが出来るのでしょうか。」（聖ヨハネ・パウロ二世『新千年期の初めに』33）

新しい年が真に新しい年になっていくのは、生きるイエスと真実な出会い、共に生き始める事を通してだけと思われまます。

（中川博道 o. c. d.）

